

ごあいさつ



金井 浩 (かない ひろし)
工学研究科長・工学部長

今年度も多くの定年退職の先生方をお送りする時期になりました。

お一人おひとりが、工学研究科・工学部での教育・学生の育成に熱心に取り組まれ、東北大学における新たな優れた研究分野を興し、ひいては世界の科学技術に大きく貢献された方々です。昭和二十三年もしくは二十四年にお生まれになり、我が国戦後復興期から高度経済成長時代、さらに平成になつてのバブル崩壊以後までの約六〇年間、まさに激動の時代の我が国を、常に第1線で支えてこられた方々と存じます。定められたこととはいえ、ご退職になるのは非常に残念なことです。

先生方の東北大震災が発生し、ご年前には、東日本大震災が発生し、ご家族を含め関係者・知人に影響が及んだ方もいらっしゃると思います。学内で被害の最も大きかった工学部・工学研究科も、その復旧に取り組む2年間であり、震災の後片付けや度重なる引っ越しを経験され、仮設研究室でご定年を迎えた先生もいらっしゃることででしょう。大震災がなければ必要なかつた作業や負担を率先してこなす中においても、常に学問にいそしみ、教育と研究に邁進された先生方に深く敬意を表します。

かに向上し「物質的豊かさ」は得られましたが、これ以上、大量消費に依存したまま地球資源を使い続け、環境を悪化させることはできない、という「転換点」を迎えつつあります。今回の大地震はこの流れを加速させ、今後、自然と人類社会を結ぶ「工学」の重要性がますます高まると思います。このことは人類の長い歴史にとつても極めて重要であり、特に今後三〇年間は、この混沌とした転換点の中から、「真に豊かな持続可能社会」を構築するための試行錯誤の期間になると思います。先生方が長年にわたり教育・研究を通じて「蒔かれた種」が、今後この過渡期を乗り越え、最適解を求め、明るい社会になるために必ず結実するものと信じております。

素晴らしい学問体系を築き、我が国において三番目に創設された東北帝國大学を受け継ぐ本学の歴史に新たな貢献を加えられた先生方を、先生方に指導された数多くの学生とともに今後も誇りに思います。このかけがえのない「知識の承継」に対しても御礼申し上げます。

先生方の益々のご健勝を心よりお祈り申し上げます。今後とも工学部・工学研究科・東北大学をご指導、ご支援頂きますようお願い申し上げます。